

# かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

vol. **86** | 2021 SUMMER

[特集]

「被災管区」から「伝承管区」へ

東日本大震災から10年  
第二管区海上保安本部の  
「現在」を取材





## PHOTO GRAVURE

- 01 赤羽国土交通大臣が横浜海上防災基地等を視察  
初任科第1期研修生入学式（於：海上保安大学校）
- 02 第三管区海上保安本部と東京都が協定を締結  
海上自衛隊と共同訓練
- 03 急患輸送で無事故連続300件達成！  
ガラスクロスに代わる油採取資器材を約半世紀ぶりに新規採用！

## 04 [特集]

「被災管区」から「伝承管区」へ

# 東日本大震災発生から10年 第二管区海上保安本部の 「現在」を取材

- 10 エトセトラ 伝承施設のご紹介

## 12 NEWS FLASH

### 裏表紙

## INFORMATION

自己救命策3つの基本

海上保安大学校・海上保安学校採用試験



# 赤羽国土交通大臣が 横浜海上防災基地等を視察



機動防除隊資機材について説明を受ける赤羽大臣



横浜海上防災基地を視察する赤羽大臣



訓練を視察する赤羽大臣



海上保安資料館横浜館を視察する赤羽大臣

令和3年4月16日、赤羽大臣は神奈川県横浜市の横浜海上防災基地を訪問し、海上保安業務について説明を受けるとともに、同基地施設を視察し職員を激励しました。また、同基地に隣接する海上保安資料館横浜館を併せて視察しました。



入学式の様子



初任科研修生・海上保安監出迎え



初任科研修生(入学式後)



伊藤裕康 海上保安監訓示



令和3年4月10日、海上保安大学校において、初任科第1期研修生30人(女性4人)の入学式を行いました。(海上保安大学校本科学学生入学式と特修科研修生入校式と同日)

新型コロナウイルス感染症対策のため、部外からの来賓、家族等の招待を取りやめ、規模を縮小しての挙行となりましたが、当日の入学式の様子は一般にもライブ配信されました。

初任科は海上保安庁幹部職員の養成を目的として創設されたもので、今後2年に渡り海上保安大学校において、幹部海上保安官として必要な専門的な知識を習得するための研修を受け、現場に配属となります。



# 初任科第1期研修生入学式 (於…海上保安大学校)



第三管区海上保安本部と  
東京都が協定を締結



「救急患者発生時及び災害発生時の相互協力に関する協定」が締結されたことを確認した第三管区海上保安本部次長(左)と東京都危機管理監(右)



締結式

令和3年3月29日、第三管区海上保安本部は東京都との間で、離島からの急患搬送と都内における災害対応を円滑に行うことを目的とした相互協力に関する協定を締結しました。

本協定は、「海上保安庁による離島からの救患搬送」、「災害発生時における人員、資機材、物資の搬送」、「東京都による施設、敷地などの海上保安庁への提供」などを、主な内容としています。

これにより、ハード面（巡視船みかづきが小笠原父島に就役）とソフト面（本協定締結）が整い、離島からの急患搬送・災害対応能力の強化が図られ、相互の迅速な対応に繋がることとなります。



父島からの急患搬送の様子(協定締結前)



共同追跡する巡視船「ほたか」とミサイル艇「うみたか」

海上自衛隊と共同訓練

令和3年4月6日、海上保安庁と海上自衛隊は、京都府舞鶴沖の若狭湾で不審船に係る共同対処能力の維持・向上を図るため、共同訓練を実施しました。

当庁からは、巡視船「ほたか」と航空機が、海上自衛隊からは護衛艦「あたご」などが参加し、情報共有、共同追跡・監視、停船措置に関する連携の確認を行いました。



ローパスする当庁航空機



訓練参加船艇の状況



不審船役の船舶を追跡する巡視船「ほたか」





記念セレモニー



職員、ご家族での記念撮影



金城飛行長急患輸送300件目



石垣クルーとの記念撮影

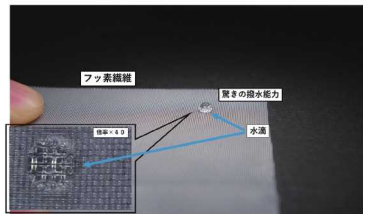
令和3年3月27日、石垣航空基地（現：新潟航空基地）の金城直樹飛行長は宮古列島の多良間島から石垣島までヘリコプターで急患輸送し、無事故300件を達成しました。

石垣航空基地は、離島住民の「最後の砦」として信頼も得ており、金城飛行長は延べ14年間にわたり石垣航空基地勤務で安全、迅速かつ確実に救急患者の搬送業務にあたりました。

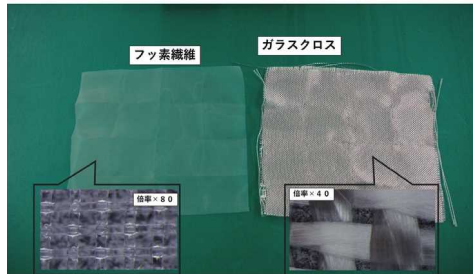
29日の石垣航空基地でのラストフライトには、職員と家族によりセレモニーを開催し、長年の労をねぎらいました。



# 急患輸送で無事故！ 連続300件達成！



フッ素繊維の撥水能力(左下:拡大)



フッ素繊維(左)とガラスクロス(右)、  
(左下:フッ素繊維拡大、右下:ガラスクロス拡大)

これまで海上浮流油の採取においては専用資器材としてガラスクロスが40年ほど使われてきましたが、油を十分に採取・抽出出来なかったことにより鑑定不可となる事案が散見されてきました。

海上保安試験研究センターでは、数年前より従来のガラスクロスに比べ採取の手間がかからず、油採取効率の高い素材はないかと試行錯誤しながら調査及び実証実験を続けてきたところ「フッ素繊維メッシュ（通称：テフロンメッシュ）」に辿り着きました。

これは、フッ素繊維を網目状に織り込んだ布であり、1枚でガラスクロス8枚分の油採取能力があることが海上での検証で証明されています。

今後、油採取資器材として現場ニーズを取り入れながら、実用化に向け調整を進めていきます！



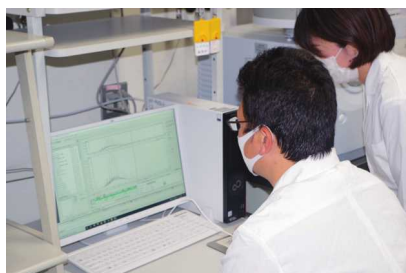
# ガラスクロスに代わる油採取資器材を 約半世紀ぶりに新規採用！



フッ素繊維からの油成分を抽出



東京保安部の協力により海上で検証



回収試験の分析データ解析



油回収能力の試験

# 「被災管区」から「伝承管区」へ

## 東日本大震災から10年 第二管区海上保安本部の「現在」を取材

取材：文／大橋博之 写真／川島啓司



### 東日本大震災への対応

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0（観測史上最大級）の地震が発生。海上保安庁は直ちに本庁及び各管区海上保安本部等に災害対策本部等を設置するとともに、「日本海溝型地震に係る動員計画」を発動。全国から第二管区海上保安本部（宮城県塩竈市）管内に向けて巡視船艇・航空機・特殊救難隊等を派遣し、災害対応に当たった。津波による被害は甚大であり、死者・行方不明者は1万8000名を超える等、地域に大きな被害が生じた。

福島第一原発事故により地域の汚染・風評被害等、現在も震災の影響は尾を引いている。第二管区海上保安本部管内においても津波により太平洋沿岸の各部署、航空基地が被災し、庁舎9箇所、巡視船艇2隻、航空機8機、航路標識129基が被害を受け、職員1名の尊い命が失われた。第二管区海上保安本部は、全国からの動員船艇、派遣職員の支援を受け、各現地災害対策本部に船隊を編成。海上部及び陸上部の孤立者の救助、行方不明者の捜索、緊急輸送路の確保、被災港湾の測量、航路標識の復旧、漂流船舶の曳航救助、航路障害物の除去、被災者支援等の震災対応業務を行っており、現在も捜索等の対応を続けている。

震災対応の詳細は「かいほジャーナル47号」にてご確認いただけます。



### 若い世代の活躍に期待

黒石積本部長

大震災の被災から庁内の復旧は果たしましたが、この先も地震・津波はまたどこかで必ず発生します。その備えとして役立つのが経験であり教訓・ノウハウです。これらを確実に若い世代にも伝え継いでいきます。（昭和61年、海上保安大学校を卒業。巡視船や本庁勤務等を経て令和2年から現職）

## 東日本大震災から10年

津波により甚大な被害を受け、一時的に業務基盤の機能低下を余儀なくされた第二管区海上保安本部だが、震災後10年の間に、同基盤の復旧・強靱化を果たしている。

### ● 巡視船艇・航空機の復旧、組織体制の強化

被災した、巡視船さおふ・くりこま及び仙台航空基地所属航空機については修理・代替機の整備によりいずれも復旧。また、防災機能が強化された巡視船まつしまや、なついで、うみぎり等新造船の配備も行われている。組織体制も強化が図られ、警備救難部環境防災課、交通部安全課安全対策調整官、管内7部署の地域防災対策官等の新規配置が行われている。



防災機能を強化し新たに配備された巡視船まつしま



防災機能を強化し新築された石巻海上保安署



復旧した大槌港灯台（町民デザイン採用）



塩竈市との協定（一時避難所として本部庁舎を指定）

### ● 庁舎の復旧

津波により被災した各海上保安部署の庁舎・船艇基地、仙台航空基地も、全てが新築・改修・移転により平成27年までに復旧された。被災後新築された石巻海上保安署や一部改修された第二管区海上保安本部、気仙沼海上保安署は、自治体との協定により避難所の役割を担うべく、機能強化が図られている。

### ● 航路標識の復旧

震災により倒壊・傾斜等の大きな被害を受けた航路標識も、震災10年目を前に完全復旧を遂げた。これら航路標識の復旧に際しては地域のアイデアも取り入れており、海上保安庁「初」の公募デザイン灯台となった「大槌港灯台（岩手県）」や、伊達政宗の兜を模した三日月デザインの「仙台南防波堤灯台（宮城県）」は、地域のシンボルとしての役割も担っている。

### ● 新たな自然災害のリスク

震災後も、第二管区海上保安本部は断続的に発生する自然災害に対応し続けている。特に近年は豪雨による自然災害が猛威を振るうなか、平成27年関東・東北豪雨や平成28年8月豪雨、令和元年東日本台風などの自然災害に際して、地元自治体の要請を受け、回転翼航空機と機動救難士の機動性を活かした内陸部での孤立者救助や、巡視船による給水・入浴支援も行う等、内陸自然災害にも関係機関と連携し積極的に対応しており、地域の期待は高い状態にある。

### ● 自然災害対策のさらなる推進、「伝承管区」へ

震災から10年の時が経過する中、東日本大震災や災害対応を経験した多くの職員が退職し、震災後に入庁した職員が全体の3割を占める等、第二管区海上保安本部は急激な世代交代の渦中にある。経験伝承が課題となっている。このような現状をとらえ、震災10年目となる令和3年、「経験伝承」「能力向上」「情報発信」の3つを柱とした「地震津波等自然災害対策推進要綱」を定め、震災の経験伝承を基盤とした災害能力向上に組織一丸となって取り組んでいる。





ベテランから若手へ 経験・技能の伝承

# 3本の柱で 災害対応能力向上へ



3.11 伝承コンサート



管区震災伝承の日

## 経験伝承

第二管区海上保安本部が災害対応能力向上のため、掲げた3つの柱の中核を担うのが「経験伝承」である。大震災の被災から、復興を遂げた「伝承管区」として、震災時の貴重な経験を風化させることなく、新たな職員に伝承することを、一連の中心に位置づけ、経験伝承に取り組んでいる。

### ● 伝承資料の整備

第二管区海上保安本部では、震災対応をまとめた報告書や、当時の写真、映像等の記録資料等の散逸・風化を防止し、次の世代に残すために伝承資料の整備を継続的にしている。これら資料は部内のみにとどまらず、震災後5年までの地域・組織の対応をまとめた「東日本大震災への対応」や、震災10年目を機に復興を題材とした記録映画「十年の軌跡」をインターネット上で公開しているほか、震災当時の写真や動画等も数多く、国会図書館や「東日本大震災アーカイブ宮城」等に提供している。

### ● 3・11伝承コンサート

震災から9年目の令和2年、ともに復興の歩みを進めてきた地域の方々とともに、震災を振り返り防災意識を高める場として、地域の語り部の方や高校生、地元ミュージシャン、海上保安庁音楽隊が共演する「3・11伝承コンサート」を開催し、地域

と一体となった経験の伝承に取り組んでいる。

### ● 管区震災伝承の日

東北地方を管轄する第二管区海上保安本部だが、その実、東北地方出身職員の割合は約半分と少ない。組織の若返りが急速に進む等、震災、災害対応を経験した職員が少数となる中、経験の伝承が課題となっている。この状況を踏まえ新たな職員に震災時の経験・教訓を伝承し、次なる災害に備える意識を養う場として「管区震災伝承の日」を新たに定めた。

第一回となる本年は3月8日に開催。職員一同により、震災後の10年間を振り返るとともに、黒石積本部長から、管区震災伝承の日を制定した趣旨と共に、「被災管区」から「伝承管区」へ完全脱皮し、災害対応能力の向上に万全を期す決意が訓示として語られた。

## 能力向上

第二管区海上保安本部は、「能力向上」として、各種訓練や、ハード・ソフト面での組織力強化による、災害対応能力強化に力を入れている。

### ● 施設の整備・強化

震災当時、第二管区海上保安本部はかろうじて水没を免れたものの、太平洋沿岸の他の全ての事務所が津波による被害を受け



関係機関合同防災訓練

た。これら被害を受けた庁舎や施設は、当時の教訓を踏まえ、耐震強化やかさ上げといった改修や、発電機が水没しないように高層階へ移動するといった対策が施された。なかでも、石巻海上保安署は建替えに併せて、防災機能が強化され、津波が来ても業務が継続できる建物構造とするともに、庁舎に外階段を取り付け、地域住民が避難場所として利用できるよう、対策が施されている。

### ● 巡視船艇・航空機の強化

震災後、新たに配備された宮城海上保安部巡視船まつしまはヘリコプター映像伝送機能や、救援物資輸送用の多目的クレーン





海上保安庁「初」の測量機 あおばずく（仙台航空基地）

の装備等、防災機能の強化が図られた。  
また、きたかみ、なついで等の新型巡視船や、海上保安庁初となる「測量機」（海洋調査専用航空機）の配備も行われる等、体制強化が図られている。  
測量機は、測量船が進入できない浅海域で航空レーザー測量が可能であり、また熱赤外線機能等を活用することで、自然災害時でもその能力を発揮した活躍が期待されている。

### ●関係機関・自治体との連携

#### 訓練・研修の実施

第二管区海上保安本部では、施設・装備等のハード面に対するソフト面の強化として、新たに「豪雨等自然災害対応要領」を



自治体との避難所開設訓練

整備する等、各マニュアル類の見直しにも積極的に取り組む、これらマニュアルに基づく各種研修・訓練を計画的に行っている。  
また、大規模地震津波災害を想定した訓練や、巡視船艇の緊急出港訓練を定期的に行っているほか、これら訓練に併せたヘリコプターからの災害時映像伝送訓練を行い、現場対応能力の維持向上を図っている。  
特に震災後力を入れているのは自治体・関係機関との連携強化である。

震災当時、第二管区海上保安本部は

500名近くの地域住民の避難を受け入れる等、避難所としての役割を結果的に担ったものの、避難者分の食糧や物資は確保されていない状態だった。震災後にこの教訓



海上自衛隊大湊地方隊との協定



海上自衛隊との連携訓練



通信事業者との連携訓練

を踏まえ、塩竈市と協定を結び、本部庁舎を指定避難所として定め、自治体により物資、食料等の整備が行われることとなった。  
同様に石巻市、気仙沼市との協定締結により、保安署を一時避難場所とする等、各自治体との連携強化を進めている。  
その他、東北各県の総合防災訓練や、自衛隊の防災訓練「みちのくALERIT」、消防庁の緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練等、自治体・関係機関主催の訓練に積極的に参加するとともに、携帯電話事業者と連携した非常時通信確保訓練なども合わせ、災害時の連携を意識した訓練に積極的に取り組んでいる。  
また、関係機関との協定締結等による連携強化も進めており、国土交通省東北地方整備局を中心とする、各県防災航空隊、警察、自衛隊との相互映像伝送協定を締結し、組織間の垣根を越えてヘリコプター現地映像の共有を図っている。従来から防衛省と

の間には災害派遣に関する協定が締結されていたが、震災後、災害発生時の燃料・給水支援等さらなる連携強化を図るため、海上自衛隊の横須賀・舞鶴・大湊の各地方隊と同協定の細則にあたる「申合せ事項」の締結と連携訓練を行い、災害時の連携対応能力強化に取り組んでいる。

### ●リエゾン要員の養成

災害発生時に関係機関連携の中核となる各県対策本部へ派遣されるリエゾン（連絡要員）は、組織を代表し他機関と諸調整を図る重要な任務を担っており、「自治体・関係機関の連携強化」のため、リエゾン要員の要請研修にも力を入れている。

情報発信

地域と共に歩み続ける第二管区海上保安部は、復旧・復興、防災教育等へ貢献するとともに、地域の理解を得、その信頼を確かにするため、「情報発信」に力を入れている。

●震災伝承施設への資料提供  
防災教育への関与

震災後、各地には、震災の記憶を伝承するための「震災遺構」「震災伝承館」等が設置されており、これらの施設は「3.11 伝承ロード」や「みちのく潮風トレイル」としてツーリズムも含有した復興事業の一端ともなっている。第二管区海上保安部は「東日本大震災津波伝承館（宮城県石巻市）」「東日本大震災・原子力災害伝承館（福

島県双葉郡双葉町）」等へ資器材や、語り部としての職員インタビュー映像の提供等を行うほか、動画「十年の軌跡」のYouTubeへの情報発信を行っている。

また、小学校の副読本には、海上保安業務の内容が盛り込まれる等、地域防災教育への関与にも力を入れている。特に宮城海上保安部は地元塩竈市と包括連携協定を締結し、学校教育から地域振興まで含んだ地域との包括的な連携強化に精力的に取り組んでいる。

●復興工事への安全対策等の推進

地域復興のため、船舶交通の安全や、港湾工事関係の安全指導、安全情報の発信に精力的に取り組んでおり、航行中の船舶や、港湾工事での事故を防止することで地域の復興の一翼を担っている。

●地域の安心に貢献

震災後、漁業を主力産業とする三陸沿岸において火事場泥棒的な密漁が横行する中、第二管区海上保安部は、断固たる姿勢で取締りに臨み、復興を阻害する犯罪者の排除に取り組んでおり、現在も、積極的な取締りと情報発信を通じて地域の安心に貢献している。

●津波防災情報図の発信

海図作成等を任務とする海洋情報部は、海図のハザードマップとして船舶避難などの防災対策につなげる「津波防災情報図」の提供を行うとともに、大震災後も続く「余効変動」の状況に対応した海洋調査と海図更新を行い、船舶航行の安全にかかる情報の発信、提供等に取り組んでいる。

記憶・経験・未来へ

震災から復興を果たし、「伝承管区」としての新たな一歩を踏み出した第二管区海上保安部だが、根底にある「地域社会への貢献」を第一とする姿勢は、従前から変わっており、震災後の災害対応や各種業務にそれは現れている。

震災以降も断続的に発生する自然災害、特に近年は豪雨災害が猛威を振るう中、令和元年東日本台風での河川氾濫、土砂崩れなどの内陸部自然災害に対しても、積極的に対応。回転翼航空機と機動救難士の機動

性を活かした孤立者救助や、巡視船による給水・入浴支援等、地域社会のために、海上のみならず内陸自然災害にも関係機関と連携し積極的に対応している。

さらに、令和3年に入り、2月13日には福島県沖でマグニチュード7.3、最大震度6強（6強は平成23年4月以降初）の地震が発生、幸い津波の発生はなかったが、その後も3月、5月と相次いで震度5強の地震が発生している。第二管区海上保安部はいずれの地震に対しても、対策本部等を設置し、自治体や関係機関と連携して災害対応にあたっている。

震災から10年が経過したが、自然災害対応への備えは新型コロナウイルスの影響もあり、さらに重要性を増している。第二管区海上保安部は「伝承管区」として、震災の教訓を確実に伝承し、地域の明るい未来のため治安維持・海難救助・海上交通の安全、海洋環境の保全等の業務に取り組んで行く。



動画「十年の軌跡」(YouTube)



津波防災情報図（関係先説明の状況）



地域防災教育への関与



令和元年東日本台風における災害対応（福島）自衛隊への給水支援、（宮城）孤立者の救助（岩手）住民への給水支援、（福島）巡視船による入浴支援

# 震災を経験した海上保安官から若手職員へ

当時は、羽田特殊救難基地（東京都）に所属していましたが、妻の出産に合わせた、青森県の妻の実家に滞在しており、震災は長女が生まれた翌日でした。病院で動きが取れず、待機する中で、遠くにいて何もできない自分に歯がゆい思いをしました。震災3日後ようやく羽田基地に戻ることができ、翌日から潜水捜索の派遣が始まりました。最初は宮城県石巻市の長面浦だったと記憶しています。通常、非日常な世界である海中に、家屋や家財道具が散乱し、違和感しかありませんでした。行方不明者は発見できませんでしたが、思い出の品などをいくつか拾い上げるのができました。現在も、巡視船くりこま潜水士として捜索を続けています。

若手との間にギャップを感じることありますが、熱意もまた感じています。被災地には、まだ、ご家族が見つかっていない方が多数おられます。これらを担う若い世代には、震災を他人事とせず、被災者に寄り添った気持ちで地域の方に声をかけて欲しいと思っています。

翌日が娘の誕生日だったので、プレゼントを買いに妻と盛岡市に出ていた時に地震が起きました。車が破損し駐車場へ一夜を過ごして、タクシードで帰宅。自宅は一部損壊してしまいました。帰宅後直ぐに釜石保安部に向かい、補給にきた巡視艇はつかぜ（宮古署）に乗船し、行方不明者の捜索活動や周辺海域のバトロール等を行い、毎日、ご遺体を搬送していました。

海で流れている家や船を捜索したのですが、残念ながら生存者の救助は叶いませんでした。通常の業務でもご遺体に関わることはありますが年に数回です。1日十数体のご遺体と接するなど、初めてのことでした。娘と同じ年頃のお子さんが亡くなったのを知り、悲しい気持ちになります。入港するのを待っている人がいて、「こんな人はいませんでしたか」と尋ねられましたが、応えることはできず、悔しい思いをしました。若い人達には常日頃から「震災や自然災害はいつ、どこで起こるか分からない」と考え、訓練や準備を怠ることなく備えて欲しいと伝えたいです。

保安部の事務室で異動に向けて書類の整理をしてきたところに、大きな揺れを感じました。同じく海上保安官の主人も庁舎内において無事でしたが、当時2歳の娘を預けていた託児所を津波が襲い、安否が分かりませんでした。津波の痕が残るなかを直接、託児所に向かい、生存を確認したときは安堵しましたが、自宅には、地震と津波の影響で帰れず、庁舎に家族3人、滞在することになりました。

その間は管理課職員として、現場で活動する約180名の保安部職員、巡視船艇への後方支援や、庁舎に避難してきた500人近くの被災者の方々の支援等を行っていました。特に食事の準備が大変でした。当時は、いつ寝たのか記憶がなく、1週間ほろくに寝ていなかったと思います。私は陸上勤務のため、直接的な救助活動ができず、歯がゆい思いをしました。しかし、船の仕事だけが海上保安官の仕事ではありません。若い人たちは船以外にも大切な仕事があることを忘れてないで、自分ができることを精一杯に取り組みんで欲しいと思います。

## INTERVIEW



船艇職員 車田 務 (40)

宮城海上保安部  
巡視船くりこま潜水士

当時：特殊救難隊



保安部職員 池田 隆 (48)

釜石海上保安部  
警備救難課専門官 / 救難係長

当時：宮城海上保安署巡視艇はつかぜ航海士補



本部職員 本堂 友子 (43)

第二管区海上保安本部  
総務部総務課文書係長

当時：宮城海上保安部管理課総務係

# 次世代を担う若手海上保安官

地震は高校卒業式の翌週頃、自宅にいた時に発生しました。家族は無事でしたが、友達と連絡がつかず、翌日、自転車で行った家の家に向かいました。周囲の家がほとんど残っておらず、啞然としたものの、幸い友達は家族と避難しており無事でした。

父が陸上自衛隊だったこともあり、人を守る仕事かということも思い入りました。震災報道で潜水士が活躍している姿を見たことがきっかけで潜水士を志し、現在は巡視船くりこまの潜水士として勤務。行方不明者のご家族の思いに応えるため、捜索も行っています。手掛かりすら見えないことがほとんどで、申し訳なさを感ずる一方、「そこに何かあるのではないか」と長い間気に病んでおられるご家族に対して、「そこには何もありません」と捜索の結果をお伝えすることと、「胸のつかえが取れた」と感謝したくともあり、意義を感じています。

近年、海だけでなく山や平地でも自然災害が発生しています。いつ何時、災害が起こるか分からないとの自覚を持って業務に取り組みんでいます。



船艇職員 加藤 広大 (29)

宮城海上保安部  
巡視船くりこま潜水士

(宮城県出身)



保安部職員 霧岡 能也 (25)

宮城海上保安部  
警備救難課救難係

(埼玉県出身)



本部職員 星 晴日 (24)

第二管区海上保安本部  
総務部人事課給与係

(宮城県出身)

発災時は中学生でした。大学に進学し、当時消防士を目指していたので救急救命士の資格を取得していましたが、大学でライフセービング部に入部したことがきっかけで海が好きになり、海上保安庁で潜水士として働いてきた部のOBに憧れ、潜水士として働きたいと考えようになりました。

また、進路決定には、テレビで震災の様子がずっと放送されていたことも大きく影響しています。私が好きな海で亡くなった方が多くいる。私が大好きな海で悲しむ人を一人でも減らしたいという思いがあります。

今は宮城海上保安部で勤務していますが、先輩の多くは震災を経験されていて、先輩から目標を持ち続けることや人を助けたい気持ちなどを常に持つなど、多くのことを教えてもらっています。

一人でも多くの命を救うため、羽田特殊救難隊を目指して頑張りたいと思っています。

当時、私は中学1年生でした。その日は3年生の卒業式が終わり、友達と役場にいました。経験したことの無い地震に恐怖を感じました。家族は無事でしたが、母の地元南三陸町の親戚は未だ見つかっていません。

公務員の専門学校で就職活動中に、海上保安庁を知りました。震災では行方不明者捜索で貢献していると知り、未知の分野でしたが挑戦することにしました。配属後、震災後新設された地域防災対策官に任命され、地方自治体の防災会議の窓口担当や、災害備蓄品の管理などを担当する中、台風19号（令和元年東日本台風）が東北を襲い、孤立地域に給水するための事務調整を担当しました。震災当時に感じた不安を思い返し、地域の方々と一緒に頑張っています。

近年、自然災害が多発しています。自分の身を守ることを最優先にし、海上保安庁などさまざまな機関が発信している情報等で、あらかじめ避難場所などを確認して頂きたいと思っています。



語り部(職員インタビュー映像)



## みやぎ東日本大震災津波伝承館

宮城県石巻市にある「石巻南浜津波復興祈念公園」内に令和3年6月6日オープン。同館では、「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」をコンセプトとし、パネルや映像によって東日本大震災伝承関連の展示が行われている。

石巻南浜津波復興祈念公園は東日本大震災で失われたすべての生命(いのち)に対する追悼と鎮魂の場となるとともに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となり、また、かつて市街地であった場所に公園の整備を通じて人々が係わり、人と人との絆、つながりを築いていくことにより東日本大震災からの復興の象徴とすることを基本理念としている。

同伝承館に対して第二管区海上保安本部は、語り部として職員インタビュー映像の提供を行っており、シアターの動画にも一部が採用されている。

## 東日本大震災・原子力災害伝承館

福島県双葉郡双葉町に令和2年9月20日にオープン。東日本大震災と津波に伴う原子力災害(福島第一原子力発電所事故)を後世に伝えることを目的とする。展示室はプロローグ(導入シアター)、災害の始まり、原子力発電所事故直後の対応、県民の想い、長期化する原子力災害の影響、復興への挑戦の6つに分かれている。第二管区海上保安本部は潜水士のウエットスーツやボンベなど震災当時使用した資器材の提供を行っている。



震災当時の潜水資器材を展示

●3・11伝承ロード  
震災の被災地には被災の実情や教訓を学ぶための遺構や展示施設が数多く存在する。

それらの遺構・施設を「震災伝承ネットワーク協議会」が「震災伝承施設」として登録し、マップや案内標識の整備などによりネットワーク化を図り、防災や減災、津波などに関する「学び」や「備え」といった様々な取り組みや事業を行う一連の活動が「3・11伝承ロード」であり、防災に対する知識や意識の向上、地域や国境を越えた多くの人々との交流を促進させ、災害に強い社会の形成と地域の活性化に貢献するため、地域一体の取組みとして推進されている。

東北地方に旅行する際は、近くの伝承施設に立ち寄り、震災に思いを馳せ、災害と防災について考える機会を作ってみよう。





# NEWS FLASH

2021.3~6

3月



3/1

二管区  
気仙沼 「気仙沼市東日本大震災 10 年復興記念事業」打上花火の海上雑踏警備



3/20

大学校 卒業式



3/21

学校 卒業式



3/24

三管区  
小笠原 巡視船みかづき就役披露式



3/26

六管区  
広島基地 MH921 「せとたか」 就役



3/31

海上保安庁  
音楽隊 残酷な天使のテーゼ YouTube 配信中!

4月



4/10

大学校 入学式



4/17

学校 入学式



4/20

六管区  
柳井 巡視艇くががぜ就役披露式



4/20

八管区  
舞鶴 FM ラジオによる海難防止啓発活動



4/24

七管区  
福岡 水上オートバイによる安全安心の確保を柱として活動するシーバードとの合同訓練



4/26

大学校 1 学年初めての端艇訓練



4/28

三管区  
本部 北朝鮮工作船事件から 20 年！～被弾した巡視船の船橋模型などを新たに展示～



七管区

大分 巡視艇ぶんごうめ就役披露式



4/29

5/5

一管区  
本部 おたる水族館で環境パネル展を開催

5月



5/10

六管区

本部 海保初!NTT 西日本との災害時協定締結

5/12



大学校 潜水技術課程 研修開始

5/12



三管区

中国海洋調査船に対し「我が国のEEZにおける事前の同意のない調査活動は認められない」と中止要求実施

本部



5/26

二管区

仙台基地 仙台市消防局との合同救助訓練



5/27

九管区

本部 水産庁との合同訓練

6月



6/1

八管区

舞鶴 地元中学生による職場体験学習



九管区

本部 アルビレックス新潟コラボポスター完成



6/6

二管区

八戸 地元海洋少年団との海浜清掃



十管区

鹿児島 特救船等合同訓練

6/7



三管区

本部 第三管区海上保安本部2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会対策本部を設置



6/24  
25

九管区

金沢 離岸流調査



## 自己救命策3つの基本

～ 思わぬ事故から命を守るために必要なこと ～

### 1 ライフジャケット 常時着用



保守・点検されたものを正しく着用してね。

### 2 携帯電話等 連絡手段の確保



防水バックに入れて落とさないようにね。

### 3 海の緊急通報用 電話番号118番

GPS機能を「ON」にすることで迅速な救助につながります。



NET118



もしもの場合に備え、家族や友人に「目的地や現在位置(釣場や港・海岸・海域名)」「帰宅時間」を伝えておきましょう。



各種レジャーの必須知識満載! 『ウォーターセーフティガイド』



海上保安庁では、海辺のアクティビティを誰もが安心して楽しめるよう、6つの各アクティビティに事故防止のための情報を総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」にて公開しています。



「うんこドリル」と海上保安庁がコラボ 日本一楽しい海の安全ドリル『うんこ海の安全ドリル』冊子・ゲームが公開中

ゲームでは、15問のクイズを楽しみながら海難防止のための基本的な知識と海上保安庁の仕事が学べます。

海上保安庁は小学生の海難事故防止および海上保安庁の仕事を楽しく学んでもらうため「うんこ海の安全ドリル」冊子およびオンラインゲームを制作し公開しています。

## 海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。

試験の日程については、下記のとおりです。詳しくは、最寄の海上保安部または海上保安庁総務部教育訓練管理官付試験募集係(Tel.03-3580-0936)までお気軽にお問合せください。



### 《2021年度 採用試験日》

#### 海上保安大学校 学生採用試験

- 受付期間 / 2021年8月26日(木)～9月6日(月)
- 第1次試験 / 2021年10月30日(土)・10月31日(日)
- ホームページ / <https://www.kaiho.mlit.go.jp/recruitment/admission/jcga.html/>
- 受験案内(募集要項)配布時期 / 2021年6月16日(水)

#### 海上保安大学校とは?

海上保安庁の幹部職員として、必要となる高度な学術・技能を教授し、併せて心身の練成を図ることを目的として広島県呉市に設置された海上保安庁の教育機関です。

#### 海上保安学校 学生採用試験

- 受付期間 / 2021年7月20日(火)～7月29日(木)
- 第1次試験 / 2021年9月26日(日)
- ホームページ / <https://www.kaiho.mlit.go.jp/recruitment/admission/jcgs-special.html/>
- 受験案内(募集要項)配布時期 / 2021年6月16日(水)

#### 海上保安学校とは?

海上保安庁の各分野における専門の職員を養成するために京都府舞鶴市に設置された海上保安庁の教育機関です。採用試験時に以下の5つの課程のいずれかを選択します。  
・船舶運航システム課程・航空課程・情報システム課程・管制課程・海洋科学課程

令和3年7月23日発行 編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室 本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。